

■ 改訂の範囲

構成	期間	改訂方針
第1部 将来構想	2020～2040年	改訂なし
第2部 実行プラン	2020～2024年度	改訂
第3部 地域プラン	2020～2024年度	改訂

■ 次期実行プランの期間

2025年度～2029年度（5年間）

■ 取り巻く環境の変化

- ・人口減少 2040年に県内人口63.9万人、若い人ほど「子育てが大変」というイメージ
- ・長寿命化 働く元気なシニアが増加、高齢者有業率は全国1位生活習慣は悪化傾向
- ・大交流化 北陸新幹線、高速道等の高速交通網整備が進展
- ・技術革新 AIが身近に、自動化や遠隔化が拡大
- ・価値観の進化 インクルーシブ社会に向けた制度面が充実

■ 次期・実行プランの検討の観点（案）

※ 長期ビジョン推進懇話会や世代別、分野別意見交換会等においてさらなる意見交換を行いながら内容を充実化

<目指す姿>

<「ふくい新時代」の望ましい姿（意見交換会等における主な意見）>

自信と誇りのふくい

○県民が楽しみ、多くの人を惹きつける地域

- ・新幹線開業の効果を持続
- ・街歩きやスポーツ
- ・県民も福井の良さの再認識を
- ・まちが大きく変化
- ・いつでも、誰でも楽しめる地域に
- ・福井の素晴らしさを謙遜せずに発信
- ・観光やまちづくり
- ・インバウンド
- ・地元プレイヤー
- ・戦略的に誘客拡大
- ・民間投資

○地域との関わりや愛着

- ・人材育成
- ・教育での地域の探究活動
- ・シビックプライドや地域への愛着
- ・大人が楽しむ姿を子どもたちに見せる
- ・人口が減る中でも暮らしの質を維持
- ・伝統文化
- ・テクノロジーの活用などDX化
- ・古民家活用
- など

誰もが主役のふくい

○多様で活力ある社会

- ・多様な人材の活躍
- ・結婚や出産
- ・女性活躍と男性の家庭進出
- ・安心して将来設計
- ・外国人材
- ・経済的な自立
- ・個性やそれぞれの能力の発揮
- ・社会全体での子育て
- ・価値観
- ・シニア

○安全・安心の暮らし

- ・障がいのある方
- ・住民の生活を支える仕事への理解と支援
- ・困難を抱える子ども
- ・自然災害
- ・豊かな自然環境等の生活基盤
- ・防災減災の強化
- ・社会的弱者の目線
- など

飛躍するふくい

○チャレンジの応援

- ・若い人の起業や挑戦
- ・ノウハウや資金、設備などリソースの共通化
- ・応援する中高年の増加期待
- ・投資やチャレンジャーの呼び込み
- ・再チャレンジ
- ・働くことの満足感
- ・若者の雇用の受け皿

○持続可能性

- ・環境配慮型、資源循環型の産業
- ・最先端の技術
- ・脱炭素
- ・エッセンシャルワーク
- ・モーダルシフト
- ・食品ロス
- ・食、エネルギー
- など

- 2040年の目指す姿の実現に向け、これまでの成果や環境の変化などを踏まえつつ、さらなる意見交換を行いながら、次期プランにおいては次の方向性をもって施策を検討

## 『自信と誇りのふくい』の実現に向けて

- ・ 新幹線効果や中部縦貫道の整備を追い風に、観光・まちづくりを加速するとともに、インバウンドを含め、戦略的に誘客拡大を図ることが重要ではないか。また、地元プレーヤー起点の挑戦を応援することはもとより、広く民間投資を後押しし、次の動きにつながる好循環を生むことが重要ではないか
- ・ 県民自身がまちが大きく変わったことを実感し、さらなる変化を期待している好機であり、文化やスポーツなど、人が行き交い、大人も子どもも楽しいと感じる場を、さらに増やすチャンスではないか
- ・ 自然や歴史文化、食はもちろんのこと、県民性も含めた当たり前の「ふくいらしさ」を、謙遜せずに主体的に発信できるようになることが大事であり、そのためには県民が福井をもっと楽しむことが重要ではないか
- ・ 福井の教育力を活かし、地域に飛び出すふるさと教育など、地域を知り、地域のことを考える活動を推進することが重要ではないか。また、古民家再生など、自身のアクションが未来を創ると実感する「地域との関わりしろ」をつくり、地域への愛着を深めることが重要ではないか

<分野>◎観光・まちづくり ◎インバウンド拡大（伝統工芸、食、景観含む） ◎文化芸術・スポーツの振興 ◎地域の未来を考えるふるさと教育 等

## 『誰もが主役のふくい』の実現に向けて

- ・ **女性の意思決定の場への参画**や、**地域の一員としての外国人との共生**など、ダイバーシティ社会の実現を推進し、それぞれが**ライフスタイルや価値観が尊重される「居場所」**を持ち、**自分らしく輝ける「舞台」**をつくる**ことが重要ではないか**
- ・ 若い世代の働き方に対する**価値観が多様化する中**、**可能性を狭める固定観念に気づき**、**これまでの常識に捉われない人材育成・登用**や、**仕事と家庭の両立を支える勤務制度**などの整備が必要ではないか
- ・ **結婚や出産を押し付けるのではなく**、**子育て支援ボランティアなどの活動を通じて**、**子育ての喜びや楽しさを体感することで自ら結婚・子育てをしたいと思えるようになる**ことが必要ではないか。また、**結婚・子育てを望む方々が安心して将来設計を描けるようになるには**、**所得向上や社会全体での子育て支援**が欠かせないのではないか
- ・ **シニアの社会参加や健康寿命延伸のほか**、**障がいのある方の活躍や自己実現**、**困難を抱える子どもたちのケア**など、**一人ひとりが抱える困難や不安に寄り添い**、**誰一人取り残されない個別最適な支援を整える**ことが重要ではないか
- ・ **地震や大雨、大雪など頻発する自然災害に対して**、**社会的弱者の視点を踏まえて**、**一人ひとりの安全・安心を高める防災・減災対策の強化**が必要ではないか

## 『飛躍するふくい』の実現に向けて

- ・ **環境配慮型、資源循環型の産業への革新**や**持続可能な地域づくり**など、次の時代をつくる経済界や地域・団体などのチャレンジを促進・支援し、「未来への投資」を進めることが一層重要ではないか
- ・ **AI**など**最先端の技術**を積極的に取り入れ、生産性を向上させながら、**働くことの満足度**を高めるとともに、**都会並みの給与水準**で安心して働ける職場環境をつくるのが、人材の確保、ひいては企業の成長に資するのではないか
- ・ 豊かな食や自然環境の基盤となる農林水産業について、生産量拡大、価格交渉力や所得の向上のほか、地産地消の推進が重要ではないか
- ・ 医療、介護、保育、教育、交通など**エッセンシャルワーク**をはじめ、各種産業での**人材不足への対応**や**生活を支えるサービスの維持向上**に向けた革新も必要ではないか
- ・ 地域課題をビジネスで解決しようとする民間主体を「ちょい足し応援」するなど、**官民共創モデル**を構築し、**地域に根ざしたローカル・ゼブラ企業を粘り強く育成**することが重要ではないか。また、「チャレンジフィールド」としての魅力を高め、**投資やプレイヤーを継続的に呼び込む**ことが重要ではないか

<分野>◎プロジェクトやプレイヤーの誘致 ◎スタートアップ支援 ◎チャレンジ応援 ◎スマート農林漁業 ◎リーディングファームの育成 ◎GXの推進 等